

# 小倉山通信

平成28年8月25日

角館中学校ホームページ [http://www.city.semboku.akita.jp/sc\\_kakuchu/](http://www.city.semboku.akita.jp/sc_kakuchu/)  
 角館中学校ブログ <http://19850424.at.webry.info/>

No.17 通巻61

## 夏季休業が終わり前学期後半の始まり

リオデジャネイロオリンピック、甲子園での高校野球大会で終わった夏季休業も終わり、7月23日(火)より、前学期後半が始まりました。

この日は、朝清掃後に、「夏休み明け集会」を開催しました。

はじめに、各学年代表の方から「夏休みの生活と前学期後半に向けて」のテーマでスピーチをいただきました。3名とも内容の濃い今後の生活に意欲が感じられる発表でした。



次に、生徒会執行部から、「仙北市子どもサミット」が8月上旬に開催されましたが、その内容について報告がありました。プレゼンを使用し、話合いの中味が分かる発表でした。



3番目に、富士河口湖訪問体験を行った3年生2名の発表でした。富士山登山、生きているクニマスの参観、リニアモーターカーの現物を参観した報告でした。二人にとって良い体験となった活動でした。



この後、生徒会執行部から、「夏休みを振り返って」の突撃インタビューが行われました。各学年一人ずつ3名のインタビューでしたが、執行部の質問に的確に答えてくれました。



そして、校長あいさつ、校歌合唱で終わりました。

集会の内容が濃く、始まりにふさわしい出発の会となることができました。生徒会執行部の皆さんの創意工夫に感謝します。

それでは、校長あいさつの内容について、掲載したいと思います。

## 夏休み明け集会でのお話

佐藤 心一

リオオリンピックは皆さんも観戦したと思いますが、私も連日熱い思いをもって観戦しました。中でも感動的なお話をしてくれたアスリートが印象に残っています。

一人は、レスリングの男子グレコローマンスタイル59キロ級で銀メダルを獲得した太田忍選手の受賞後のコメントです。

「自分は相当練習をしてきたつもりだったが、自分よりも練習をたくさんやってきた人が金メダルを取った。東京オリンピックに向けては誰よりも練習を多くやって、臨みたい。」

次は、デュエットと団体で銅メダルを獲得したシンクロナイズドスイミングの皆さんです。「地獄のような練習でした。毎日毎日たくさんの練習をしました。時には、一日13時間の練習をしたこともありました。」

一日13時間の練習をすると、 $24 - 13 = 11$ なので、寝ている時間を8時間としても自由時間は3時間しかありません。その中で食事をするのですから、ほとんど一日が練習ということになります。これだけ頑張っているのだ、ということですね。

この後、同じ会場でパラリンピックが開催されますが、世の中には、様々な障害をもった方もいらっしゃいます。この夏、一人の障害をもった方の記事に出会いましたので、紹介します。その方は福島智さんという東京大学の教授をされている方です。資料は、私がつい最近まで読んでいた「致知(ちち)」(致知出版社2016年6月号)からの抜粋です。(集会では長い文章だったので抜粋して紹介しました。)

## 特集一関を越える

(前略)

本誌は、人生の関所を越えてきたたくさんの事例を細介し続けてきた、といえる。なかでも、これほどの難関を越えてきた例は滅多にあるまい、と思われる人がいる。今年の新春大会にご登場いただき、千二百人の聴衆の心を深い感動で包んだ福島智さん(東京大学教授)である。

福島さんのお話を初めてうかがった時、肌がチリチリ痛むような衝撃を覚えた。

福島さんは三歳で右目を、九歳で左目を失明、全盲となった。生来が楽天的、と本人はおっしゃるが、視力を失っても音の世界がある、耳を使えば外の世界と繋がるこ

とができると考え、実際、音楽やスポーツや落語に夢になっていた、

だが、さらなる過酷な試練が全盲の少年を襲う。十四歳の頃から右耳が聞こえなくなり、十八歳、高校二年の時に残された左耳も聞こえなくなってしまったのである。

全盲聾一光と音からまったく閉ざされた世界。福島さんはその時の状態を「真っ暗な真空の宇宙空間に、ただ一人で浮かんでいる感じ」と表現している。

なぜぼくだけこんなに苦しまなければならないのか、これから先、ぼくはどうやって生きていけばよいのか……不安、恐怖、絶望。懊惱(おうのう)の日々が続いた。

そんなある日。母親の令子さんが福島さんの指を点字タイプライターのキーに見立てて「さとしわかるか」と打った。

「ああ、わかるで」と福島さんは答えた。

母親のこの指点字は壮大な転機となった。福島さんは真っ暗な宇宙空間から人間の世界に戻ってきたのだ。その時の感動を福島さんは詩に綴っている。

### 指先の宇宙

ぼくが光と音を失ったとき  
そこにはことばがなかった  
そして世界がなかった

ぼくは闇と静寂の中でただ一人  
ことばをなくして座っていた

ぼくの指にきみの指が触れたとき  
そこにことばが生まれた  
ことばは光を放ちメロディーを  
呼び戻した

ぼくが指先を通してきみと  
コミュニケーションするとき  
そこに新たな宇宙が生まれ  
ぼくは再び世界を発見した

コミュニケーションはぼくの命  
ぼくの命はいつもことばとともにある

指先の宇宙で紡(つむ)ぎ出されたことば  
とともに

この詩の意味するものは大きい。福島さんだけではない。すべての人の命は言葉とともにある。言葉のないところに人間の命はない。福島さんは身をもって、そのことを私たちに示してくれている。

同時にもう一つ大事なこと、絶望の淵から人間を救うのは言葉である、ということ。どのような人生の難関も言葉という通行証を手にすることで乗り越えることかできる、ということ。そのことをこの詩は私たちに教えている。

福島さんのお話を聞き、著書を読んで強

く感じたことがある。福島さんには四つの特質がある、ということである。

一つは非常に明るいこと。二つはユーモアがある。三つは常に人に何かを与えようとしている。そして四つは、自分が主語の人生を生きている、ということ。

そこには被害者意識は微塵もない。被害者意識で生きている人は何ごとであれ人のせいにする。人のせいにしている人に難関は越えられない。人生は開けない。

この四つの資質こそ、福島さんをして、普通の人なら絶望してしまいかねない人生の難関を越えさせた秘訣であるように思うのである。

前学期後半、1・2年生は新人戦があり、また全校では一大行事のすすかけ祭があります。人のせいにすることなく、自らの責任を果たし、感謝の気持ちで毎日を送ってほしいと思います。

## 9月の行事

- 1(木)学校安全日、テスト前部活動休止日(2日,4日)  
3年生宿泊研修2日目：大学訪問
- 2(金)お祭り集会、曳山集会
- 5(月)前学期期末テスト、学校祭集会(役割決め)
- 7(水)角館のお祭り～9日(金)
- 10(土)開校記念日
- 11(日)県レクリエーション大会 in 仙北市
- 12(月)すすかけ祭担当部門会議
- 13(火)芸術鑑賞(わらび座：ハルらんらん)、地生研究生徒研修会(田沢湖SC～14日)
- 15(木)全県駅伝・新人総体壮行式、コアティーチャー研究授業
- 17(土)全県駅伝競走大会開会式
- 18(日)全県駅伝競走大会
- 19(月)敬老の日、全県選抜(加藤杯争奪)柔道大会(男鹿市総合体育館)
- 20(火)職員会議
- 21(水)2・3年生高校説明会
- 22(木)秋分の日、郡新人戦野球第1日目
- 24(土)郡新人総体1日目、郡新人野球第2日目
- 25(日)郡新人総体2日目、郡新人野球第3日目
- 26(月)仙北市第1回さくら交流会
- 27(火)校内授業研究会(教科等訪問：道徳)
- 28(水)大曲仙北児童生徒理科研究発表会(大曲中)児童生徒支援加配校訪問
- 30(金)生徒会専門委員会

※ 9月21日に「高校説明会」がありますが、今年度は、2年生も参加し、自分の進路に対する情報を収集する機会を設けました。詳細は各学年部から、後日連絡があります。高校を理解する機会ですので、日頃思っている疑問等、生徒の皆さんは考えておいてください。